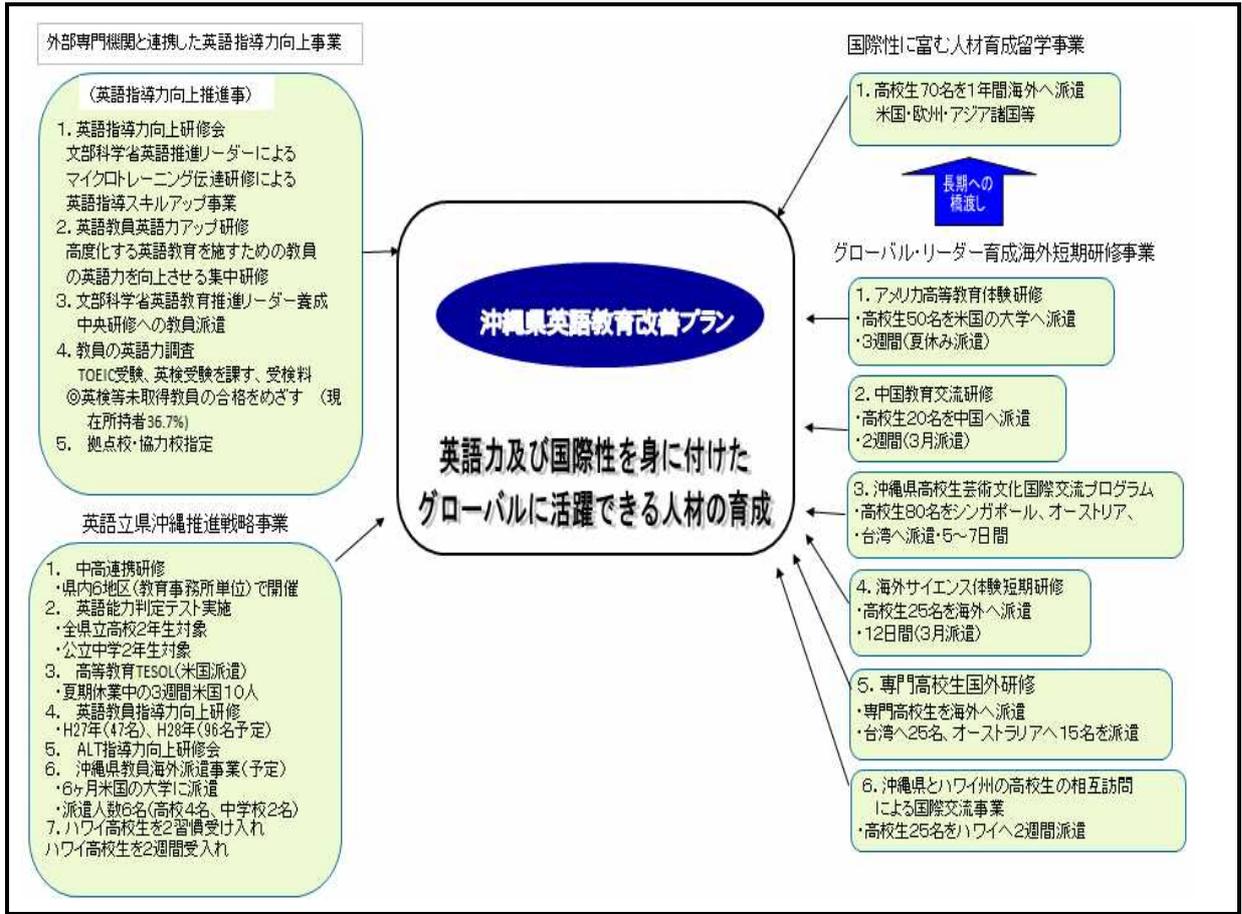


(様式3-2)

沖縄県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【小学校】

[平成 29 年度当初取組について]

- ① 相応の英語力を有する英語担当教員の割合 設定しない
- ② 小学校教員に対する研修実施回数 17 回

[平成 29 年度の進捗状況・課題]

No.	指標内容	H27		H28		H29	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
⑦	相応の英語力を有する小学校教員の割合(%)						0.6%
⑧	小学校教員に対する研修実施回数			17	17	17	17
	研修受講者数			300	336	340	343

- ① 相応の英語力を有する英語担当教員の割合は設定しないが、「教員英語力アップ研修会」にて、授業を行うために必要な教室英語や ALT とやり取りをする場合に必要な表現などの実践的ワークショップで、英語によるコミュニケーションの基礎となる力の向上を図っている。
- ② 小学校教員に対する研修実施回数が、17 回で、英語指導力向上研修会、教員英語力アップ研修会、小中連携英語研修会等を各教育事務所にて実施している。

[平成 30 年度の目標管理]

平成 30 年度の目標管理を次のように設定する。

校種	No.	指標内容	2017	2018	
			現状	目標値	達成値
小学校	①	学習到達目標の整備状況 設定(%)			
		公表(%)			
		達成状況の把握(%)			
	②	小学校教員に対する研修実施回数	17回	18回	
	③	研修受講者数	343	350	

【中学校】

中学校においては、主体的に英語でコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成するために、教員の指導力と英語力を向上させる教員研修を実施し、授業改善をすることで、次の各目標を設定してきた。結果は次の通りである。

No.	指標内容	H27		H28		H29	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	34.2%	50.0%	36.7%	50.0%	45.0%
②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	30.0%	29.2%	40.0%	30.1%	40.0%	31.7%
③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	98.0%	96.0%	98.0%	91.9%	98.0%	98.0%
	公表(%)		13.5%	50.0%	14.2%	70.0%	10.9%
	達成状況の把握(%)		31.8%	70.0%	53.4%	98.0%	51.7%
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	50.0%	60.0%	70.0%	68.8%	70.0%	76.5%
⑤	パフォーマンステストの実施状況 スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回	2.5回	3回	2.8回
	ライティングテスト(回)	2回	2回	2回	1.4回	2回	1.9回
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60.0%	63.4%	68.0%	72.6%	73.0%	77.4%
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	20回	24回	20回	20回	20回	
	研修受講者数		596	468	372	316	566

① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

[目標達成のための手立て] 平成 28 年度 目標値 50.0% 達成値 36.7%

- ・ H28 年度から実施している「教員英語力アップ研修会」にて、準一級などの資格をもたない教員をおもな対象に、集中講座を実施し、資格取得者増加をめざす。
- ・ H29 年度から国の「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の委託を受けることにより、外部専門機関である TOEIC テストを課し、教員の資格取得率を高める。

[平成 29 年度の進捗状況・課題] 平成 29 年度 目標値 50.0% 達成値 45.0%

- ・ 昨年度より、8.3pt 上昇し、目標の 50.0%にあと 5pt というところまで近づいた。「教員英語力アップ研修会 3 日間」「TOEIC 団体テスト」の実施で、英語教員に英語のブラッシュ・アップが図られると同時に、引き続き個人でも英語力を磨く意欲を喚起することができた結果であると考えられる。引き続きこれらの研修と外部試験の利用を通して教員を支援していきたい。

② 求められる英語力を有する生徒の割合

[目標達成のための手立て] 平成 28 年度 目標値 40.0% 達成値 30.1%

- ・ H28 年度から実施している「英語指導力向上研修会」で、小学校中核教員と中学校英語担当教員の指導力が向上することにより、言語活動の工夫で、生徒の英語使用量を増やし、英語で話すこと、書くことの表現力の向上を図る。

[平成 29 年度の進捗状況・課題] 平成 29 年度 目標値 40.0% 達成値 31.7%

- ・ 前年度よりわずかに 1.6pt 上昇したが、目標値には 8.3pt 及ばなかった。英語による対話的言語活動や表現する機会を充実する授業改善に引き続き取り組み、外部試験も利用しながら、生徒の英語力を高めていきたい。

③ 学習到達度の整備状況

[目標達成のための手立て]

「CAN-DO リスト」形式での設定状況 平成 28 年度 目標値 98.0% 達成値 91.9%

- ・ 昨年の 96.0%から 4.1%減となった。すべての学校の設定・把握を促すととともに、公表の工夫をする。

[平成 29 年度の進捗状況・課題]

設定状況 目標値 98.0% 達成値 98.0%

公表 目標値 70.0% 達成値 10.9%

達成把握 目標値 98.0% 達成値 51.7%

- ・ 設定状況は目標値に達したが、リストの公表については、ほとんどの学校がどのように公表してよいか方法が分からないという具合であり、その方法について知らせていきたい。
- ・ リストの達成状況の把握についても、学年の後半には把握し、次学年へ引き継ぐことをア

ドバイスしていきたい。

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

平成 28 年度 目標値 70.0% 達成値 68.8%

[目標達成のための手立て]

- ・言語活動の中で、生徒の意欲を喚起する興味深い材料を仕込み、主体的に取り組める工夫をし、英語の使用量を増やす。

[平成 29 年度の進捗状況・課題] 平成 29 年度 目標値 70.0% 達成値 76.5%

- ・授業改善が進み、言語活動によく取り組み、授業改善を行っていることがうかがえる。この取り組みを継続しながら、コミュニケーションを円滑に図るための、基礎的基本的事項と有機的につなげながら学力の定着を図っていきたい。

⑤ パフォーマンステストの実施状況

[目標達成のための手立て]

平成 28 年度

スピーキング 目標回数 3.0 回 達成回数 2.5 回

ライティング 目標回数 2.0 回 達成回数 1.4 回

- ・パフォーマンステストの必要性と重要性が教員に理解され、適切な回数の実施となってきた。

[平成 29 年度の進捗状況・課題]

平成 29 年度

スピーキング 目標回数 3.0 回 達成回数 2.8 回

ライティング 目標回数 2.0 回 達成回数 1.9 回

- ・目標回数を達成しつつあり、各学校で、パフォーマンステストが定着してきていると思われる。

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

[目標達成のための手立て] 平成 28 年度 目標値 68.0% 達成値 72.6%

- ・英語で教えるということに、抵抗がなくなってきた。目標値 73.0%以上をめざす。

[平成 29 年度の進捗状況・課題] 平成 29 年度 目標値 73.0% 達成値 77.4%

- ・目標値を超え、英語で教えるということが意識付けられてきていると言えよう。

⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数

[目標達成のための手立て] 平成 28 年度 目標回数 20 回 達成回数 20 回

- ・現在は、指導力向上研修、小中連携英語研修、中高連携研修が 6 教育事務所で実施されている。

[平成 29 年度の進捗状況・課題]

平成 29 年度 昨年度と同様回数を実施、適度な研修の回数が確保されている。

研修受講者数が昨年度 316 人から 444 人に増加した。

[平成 30 年度取り組みについて]

平成 29 年度の課題と成果を踏まえ次のように数値目標を設定し授業改善を図る。

校種	No.	指標内容	2017	2018	
			現状	目標値	達成値
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合 (%)	45.0%	50.0%	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合 (%)	31.7%	40.0%	
	③	学習到達目標の整備状況 設定 (%)	98.0%	98.0%	
		公表 (%)	10.9%	70.0%	
		達成状況の把握 (%)	51.7%	98.0%	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合 (%)	76.5%	80.0%	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況 スピーキングテスト (回)	2.8回	3回	
		ライティングテスト (回)	1.9回	2回	
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況 (%)	77.4%	75.0%		
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	20回	18回		
	研修受講者数	444	450		

【高等学校】 高等学校においては、目標値を設けているほとんどの項目を下回っている。特に、「学習到達目標の整備状況公表、達成状況の把握」、「生徒の授業における英語による言語活動時間の割合」、「英語担当教員の授業における英語使用状況」において、目標としている数値を大きく下回っている。更なる授業改善と評価方法の工夫が必要であり、次の方策を考えている。

「求められる英語力を有する生徒の割合」に関しては、前年度と比較すると増となっており、英語能力判定テスト（IBA）の受験者増による効果があったとみている。平成30年度は全日制・定時制の全2年生を対象に実施する予定である。

① 求められる英語力を有する英語担当教員の割合

目標値78.0%に対して73.6%と下回っており、継続的に英語担当教員の英語力向上に繋がる研修会を開催し、目標値達成に向けて取り組んでいく。

② 求められる英語力を有する生徒の割合

目標値50.0%に対して44.3%と下回っているが、前年度と比較と「英検準2級以上を取得している割合16.8%(+1.0ポイント)、英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる割合27.4%(+4.8ポイント)」となっており、改善が見られる。しかし、次年度の目標値52%達成に向けて、引き続き各研修会において、CEFRの基準が計れるパフォーマンス評価を取り入れるよう求める。

③ 学習到達目標の整備状況

「CAN-DOリスト」の形式での設定状況は、H27年度全高校からの提出があり100%であった。しかし、公表に関しては13.5%とかなり低いのが現状である。公表の意義の理解を進め、平成30年度には目標値に近づけるように努める。

④ 生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

現状は42.1%であるが、中高連携研修会の公開授業等でモデルを示すことにより、平成30年度には目標値に近づけるように努める。

⑤ パフォーマンステストの実施状況

昨年度に比べると、スピーキングもライティングのテストも改善している。しかし、まだまだ目標値に届いていない科目があるので、パフォーマンス評価に特化した研修会を開催し、意義、実施方法について意識を高める。

⑥ 英語担当教員の授業における英語使用状況

現状は47.7%であるが、夏季休業中に3日間の英語教員指導力向上研修を通して、平成30年度には75%を目指す。

⑦ 英語担当教員に対する研修実施回数

現状は、中高英語担当教員対象の合同研修会は「高校入試分析説明会（7地区）」「中高連携研修会（6地区）」「英語能力判定テストフィードバック説明会（3地区）」「教育講演会」「小中高大連携シンポジウム」の5つ、高校英語担当教員対象の研修会は「教育課程説明会（3地区）」「学習評価に関する研修会」「英語教員指導力向上研修会」の3つとなっている。ほとんどの研修が悉皆研修となっており、研修会では県の「英語教育改善プラン」を理解してもらい、各学校で生徒の英語力向上に繋がるような内容を目指す。

⑧ 平成29年度の進捗状況・課題

英語教育改善プランで設定した目標設定値において、各項目とも達成することができなかったが、全ての項目において改善している。特に、生徒の英語力においては、県立高校全2年生が英検IBAを受験、県教委主催のパフォーマンスに特化した評価に係るレクチャー・ワークショップ等を通して、各学校での取り組みの成果が見られ昨年度比+5.9ポイントの44.3%となっている。

第3期・4期教育振興基本計画で示されているとおり、生徒の英語力の割合は60%、70%とさらに高い数値目標が設定されているので、継続的に研修等を通じ学校現場を支援して行く。

(3) 研修の体系と内容の具体

1 平成 29 年度の進捗状況・課題【県としての小中学校の取組】

小中学校においては、平成 29 年度より文部科学省「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の承認を受け、県としては「英語指導力向上推進事業」という名称で次の 5 つの研修を実施してきた。

英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修による「指導力向上研修会」は、小学校英語担当教員・英語教員が、意欲的に参加し、指導技術のスキル・アップを図ることができている。受講した教員は授業で自信をもって児童・生徒の指導にあたり、授業改善が進んでいる。

授業で必要とされる英語運用力を備えるための「教員英語力アップ研修」においては、小学校教員には自信を与え、中学校英語教員には、求められる英語力を備えるブラッシュ・アップ研修となり、外部試験 TOEIC テストの団体受験も、25%の受講者が目標点を超えることができた。また、目標管理の達成値が飛躍的な上昇につながっている。

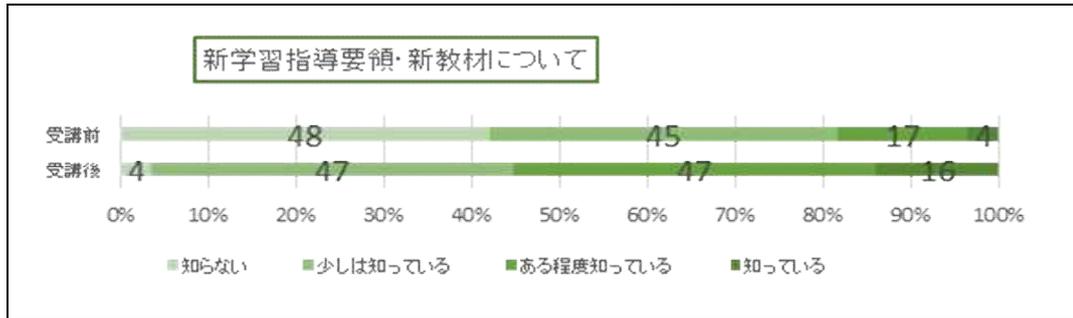
研究協力校における推進リーダーの指導は効果的であった。小学校においては、推進リーダーである加配教員（県では「英語教育強化教員」と称している）が本研究を推進している。そして地区の 60 校余りの要請を受け、精力的に学校を回り指導にあたっている。それにより、授業改善は進み、移行措置への対応や、新教材の利用や年間計画についてワークショップをすることで、多くの教員に自信と安心を与えている。また、中学校においては、推進リーダーの指導技術の波及により、授業でのインターアクティブなスピーキング活動で授業改善が進んでおり、次年度での効果に期待がもてる。

課題は、中学校 3 年生の英語力である。小学校での英語教育の素地を生かし、中学校での授業改善を引き続き行い、全県に研修実践の成果を波及させ、中学校 3 年生で測られる英語教育の成果に反映されるようにしていく。

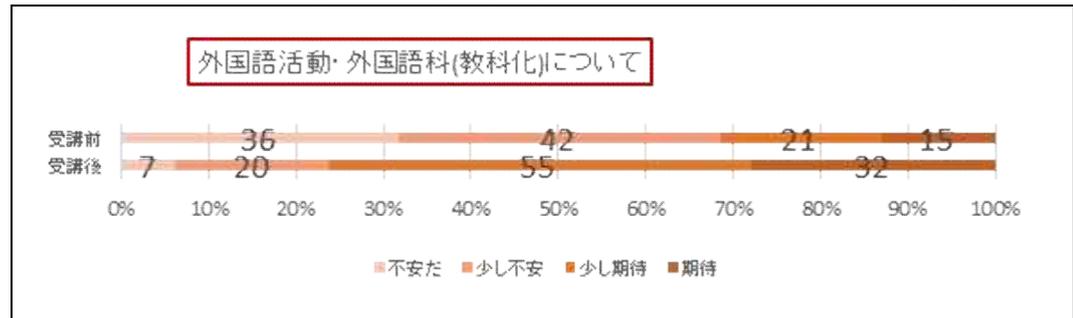
(1) 【協力校 小学校の取り組み】

[成果]

- 模擬授業などを通して新教材の指導内容などの具体的なイメージを与えることができ、教員の不安を期待へ変えることができた。(不安感の解消)



- ・新学習指導要領・新教材の内容について「ある程度知っている」「知っている」が 11% から 63%へ増えている。それに伴い、不安感 78%から 27%へ減っている。



- ・教科化に関する具体的なイメージを提示することで「期待」をいだけ教員が 87%に増えた。

- 移行期間の年間計画ワークショップにより、教員が年間計画を作成することができた。(負担感の解消)
- 外国語活動の授業へのアドバイスや単元計画の作成指導、授業参観・介入授業などで、教員がゴールを意識しスモールステップで授業をする意識が出てきた。
- 『HRTのCan-DoリストHop Step Jump』を示すことで、教員の意識改革が図られ、担任主導の授業が増えてきた。
- 「手書き打ち合わせメモ単元計画」を活用することで短時間でのALTとの打ち合わせが可能になり、担任とALTの連携が取れるようになった。
- 新学習指導要領・新教材の内容について「ある程度知っている」「知っている」が11%から63%へ増えている。それに伴い、不安感78%から27%へ減っている。

[課題]

- 新教材『We Can①②』を活用し5・6年生での教科化をみすえた授業づくりと授業実践
- 新教材『Let's Try①②』を活用し3・4年生への導入を意識した授業づくりと授業実践
- 小中連携を意識した効果的な指導と評価の在り方
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準と評価の在り方の研究

(2) 【協力校 中学校の取り組み】

[成果]

- 英検 IBA を実施し、結果の分析を授業に活用したクラスで定期テストでも成果が出た。
- パフォーマンステストの実施（やり取り）が、ペーパーテストにもよい影響を与えた。
- 会話の返答が単語から文へと応答力が上がった生徒が若干名でてきた。
- メモ程度の情報から文で応答できる、書ける生徒が若干名でてきた。
- パフォーマンステスト（評価）のスピーキングテストにおいて、多少のミスは言い直しができる点がペーパーテストとは違い、英語を話す動機づけになることがわかった。
- 小学校との連携で、小学校の「道案内」を中学校での「道案内」につなげ、公開授業を実施した。小学校での素地を生かし、つなげることができたように思う。

[課題]

- パフォーマンスを充実させようとする、評価に時間がかかりすぎてしまう点の解消
- 小学校との連携（CAN-DO リストのつなぎ）
- 学年・学校での共通実践と授業改善の波及
本年度は、全学級や学校全体で共通実践をすることができず、推進リーダーが担当する学級に検証対象が限られた。次年度は体制の改善をしていきたい。

2 【平成 30 年度取り組みについて】

(1) 県としての取組

平成 29 年度の課題と成果を踏まえ次のように研究を推進する。

(「英語指導力向上推進事業」)の中で次の5つの研修を実施する。

- ① 英語指導力向上研修会（小学校・中学校）
文部科学省英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修により、英語担当教諭・英語教師の指導技術のスキル・アップを図る。
- ② 英語教員英語力アップ研修
高度化する英語教育を実践するために必要な教員の英語力の向上をめざした集中講座である。この研修において、準一級などの資格をもたない教員をおもな対象に、集中講座を実施し、資格取得率を高める。
- ③ 文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修への派遣（県費）
- ④ 外部英語検定試験等（TOEIC、英語検定、GTEC 等）の受検料をサポートし、求められる英語力を有する英語担当教員の増加をめざす
- ⑤ 研究協力校指定
 - 小学校—英語推進リーダーによる実践的指導力の向上（英語教育強化加配1名）
 - 中学校—スピーキング能力の向上（パフォーマンス評価の工夫）

(2) 小学校の取組

① 目的

- 英語推進リーダーによる実践的英語指導力の向上
- 小学校外国語教育の教科化等に対応するための、英語教育推進リーダーによる、校内・地区への指導技術等の波及

② 役割

ア 勤務校での役割

- 教材「We Can」をHRTと共に授業実践することで、教科化を体感させる。
- 教材「Let's Try」をHRTと共に授業実践することで、外国語活動を体感させる。
- 年間計画・授業の在り方・単元構成・教材などについて指導助言を行う。
- 校内研修の推進と中学校英語科教員等と連携した授業研究の推進を行う。

イ 研修会・研究会での役割

- 県教育委員会が主催する「英語力・指導力向上研修」の講師
- 市町村教育委員会が主催する研修会・研究会の講師

ウ 要請を受けて訪問する学校において

- 授業参観後、授業についての指導・助言を行う。
- 教材「We Can」「Let's Try」をHRTと共に授業し(介入授業)指導・助言を行う。
- 校内研修でこれからの外国語について講話やワークショップを行う。

エ 授業公開

- 県内の教員を対象にした授業公開(10月)

③ 計画

【4月～8月】

- ・新学習指導要領・年間指導計画についての研修(「We can」指導計画作成について)
- ・県や市町村教育委員会主催の研修講師(英語主任研修会・ALT研修会)
- ・英語指導力向上研修(5月・8月)
- ・英語力向上研修(8月)

【9月～12月】

- ・派遣要請校においての研修講師(中堅教員の授業公開と校内研修)
- ・公開授業(10月:「We can」「Let's Try」を活用して)

【1月～3月】

- ・研究のまとめ

④ 成果の検証

ア: 教員の変容

○アンケートの実施

- めざす子どもの姿の設定に合わせた楽しい言語活動の工夫があるか。
- ALTと打ち合わせて授業を組み立てることができるか。
- 子どもに達成感を味合わせることができるか。
- 英語の学習者の一人として、学ぶ姿勢で積極的に英語を使っているか。

○観察による見取り

イ: 児童の変容

○アンケートの実施

- 意欲の向上: 英語活動の時間が楽しい。もっと話したい。
- コミュニケーション力の向上: 自ら英語で相手に伝えようとしている。

○英検 Junior の実施

5年生 Bronze 6年生 Silver の実施

H29年度との経年比較

○観察による見取り

(3) 中学校の取組

① 目的

- スピーキング能力の向上（パフォーマンス評価の工夫）
スピーキングの評価における工夫をとおして、信頼性と妥当性のあるパフォーマンス評価のあり方について検証する。

② 研究内容

- 授業でスピーキングの言語活動を工夫し、その効果や評価について検証する。
- 評価項目の検討をする。
- 評価者を工夫する。（ALT、生徒相互、自己評価など）

③ 成果の検証

- CAN-DO リストによる評価 ○生徒・教員・ALT アンケート調査
- 映像による授業分析 ○G-TEC テストを使つてのスピーキング評価

【高等学校の取組】

高等学校においては、本島・離島を含む全県立 60 校を対象とした研修会を、年 3 回実施を計画している。また、中高連携を深めるために、教育事務所単位（6 地区）で研修会を次年度も計画している。さらに、パフォーマンステスト・評価が重要視されている昨今の現状を踏まえ、県外大学より講師を招へいし、全県立 60 校対象の悉皆研修も予定している。

- ① 高校入試分析会を 7 地区に分け、全ての公立中学校、県立高校より英語担当教員 1 名が参加する研修会を実施し、3 技能（読む、聴く、書く）の向上に繋がる高校入試のありかたについて協議し、各学校での授業改善に取り組む。
- ② 県立高校英語科教員対象の教育課程研修会を 3 地区に分け実施する。国の動向や、本県の生徒、教員の英語力の状況、留学事業等の行政説明後、グループ討議ではテーマを設定し各グループで話し合い、それぞれのグループでの協議内容を全体で発表しシェアし、授業力向上に努めている。
- ③ 平成 25 年度より、カリフォルニア大学サンディエゴ校より當作靖彦氏を招聘し、学習評価に特化した講演会、レクチャー、ワークショップを開催している。参加者からも好評を得ており、平成 30 年度も、高等学校の外国語担当教員を対象とした研修会を計画中である。

平成 29 年度の進捗状況・課題

今年度は、台風等の影響を受けることなく全研修を予定通り実施することができた。全ての研修会において、現在の英語教育の全国的な流れ、改革の方向性、高大接続における大学入試英語の 4 技能テスト（外部検定試験の導入）等を繰り返し何度も説明し、英語担当教員の意識の向上に努めていく。「英語は実技教科」という共通意識の元、パフォーマンステストの実施・評価に重きを置きながら、研修会や学校訪問を実施していく。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校授業改善アドバイザー研修会（5 教科） ・研究協力校推進委員会①（於：大山小） 	
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（中学校）① ・英語能力判定テスト（高校約 14000 名、中学校約 160 名対象）実施 ・中学校レディネス・テスト（真志喜中）の実施 ・英語教育推進リーダー研修実習（小学校） ・中学校教科ブロック研修会（5 教科） 	<p>British Council</p> <p>英語検定協会</p>

6月	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（小学校）① ・英語教育推進リーダー研修実習（小学校） ・高校入試分析研修会（全7地区）（中学校・高校） ・ALT コーディネーター研修会 	British Council
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語授業マイスター発掘プロジェクト（小・中・高） ・英語教育推進リーダー研修実習（小学校）6地区 ・英語教育推進リーダー研修実習（中学校）6地区 ・教員英語力アップ研修（小学校・中学校）6地区 ・研究協力校推進委員会②（於：大山小） 	外部講師
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教員指導力向上研修（高校） ・教育課程（外国語）研修会（全3地区）（高校） ・英語能力判定テストフィードバック説明会（中学校・高校） ・中学校授業改善アドバイザー研修会（5教科） ・学習評価に関する研修会（悉皆研修）（高校） 	外部講師 英語検定協会 カリフォルニア大学
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語担当中高連携研修会（6地区）（中学校・高校） 	沖縄国際大学
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（中学校）② ・協力校授業公開（大山小学校） 	British Council
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力校授業公開（真志喜中学校） ・ALT等の指導力向上研修会 ・文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修会（小学校）② 	British Council
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ポスト・テスト（真志喜中）の実施 ・中学校教員 TOIEC テストの実施 	TOEIC 国際ビジネス コミュニケーション 協会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育講演会 ・小中高大連携シンポジウム ・研究協力校推進委員会③（於：大山小） ・文科省全国連絡協議会 	県外大学講師
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員 TOIEC テストの実施② ・G-TEC を使ったスピーキング評価に関する研修会（中学校） ・研究協力校推進委員会④研究まとめ（於：大山小） 	TOEIC 国際ビジネス コミュニケーション 協会 G-TEC ベネッセコ ーポレーション
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめ ・次年度の計画 	
<p>【その他の取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・琉球大学「小学校教員のための中学校英語免許」免許法認定講習（年間の週末実施） ・研究協力校推進委員会（授業づくり、成果検証調整、まとめ、アンケート集計、報告書作成など） 		

